

学費のいま



1970（昭和45）年11月10日付『学員時報』第41号の3面に「入学時にいくらかかる？」と題した記事が掲載されている。入試シーズンを控えて入学時の費用がいったいどれくらいかかるのか、受験生を抱える親であれば最も気になるところである。

その記事によれば、当時私立大学の各学部別では、医・歯学部が最も高く50～60万円、次いで理工・薬学部などの理科系が続く。安い学部は、文・商・法・経などの文科系で11～19万円前後という数字があがっている。

また、この記事の小見出しには「安い東の中大 西の立命館大」とあり、関東では本学、関西では立命館大が学費の安い横綱格の大学として取り上げられている。この年本学は3年前の学費値上げの白紙撤回の余波で文系4学部（昼）が合計14万3,000円、理工学部が19万8,000円であった。

ちなみに、現在はというと、国立大学で約82万円、私立大学では2009年度に平均で131万円を超えて過去最高となったといわれている。学部別では、文科系約115万円、理科系約150万円、医歯系約500万円（実験実習費を除く）で、本学の法・文両学部が約111万円です。学費の安い文系大学・学部を覗かしている。